

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">青年心理学</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文 2 回生 教育教福 2 回生 文学部英米 2 回生 人間人社 2 回生 文学部教福 2 回生 文学部文財 2 回生 文学部コミ 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">田沢 晶子</p>
<p>授業テーマ</p> <p>「青年期」について理解を深める。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>この授業では、「青年期」という人生の一つの特殊な段階について多角的に理解することを目標とします。特に自分を問い直す時期としての「青年期」に焦点をあてて、エリクソンの考え方を概説し、この時期に起こる心理的な葛藤のいくつかを見ていきます。また「青年期」が成立した社会的・歴史的な過程や、心身の変化についても学びましょう。</p>		
<p>評価方法</p> <p>レポートの内容によって評価します。出席、授業態度も加味します。</p>		
<p>テキスト</p> <p>講義中に適宜プリントを配布します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>青年の心理 アイデンティティの心理学 女性の成長と心の悩み</p>	<p>著者</p> <p>遠藤由美 鎌 幹八郎 人見一彦</p>	<p>出版社</p> <p>サイエンス社 講談社現代新書 創元社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>子どもと大人の中間に位置する「青年期」が成立したのはそれほど昔のことではありませんが、この時期に起こる変化や葛藤は大きいものです。エリクソンは、人間の一生をいくつかの段階に分け、それぞれに特有の発達課題を設定しました。その中で青年期は「アイデンティティ」を形成する大切な段階です。エリクソンの生い立ちを通して彼の考え方を学び、この時期に起こるさまざまな出来事について見ていきましょう。</p> <p>[スケジュール]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 自分を問いなおす時期としての「青年期」 自分を証明するものは？ 3. 自分という感覚はどこから来るのか はじめて出会う他者、家族 4. 自分という感覚はどこから来るのか 仲間との関係 5. 自分という感覚はどこから来るのか エリクソンの生い立ちを通してアイデンティティを考える 6. 自分を「語る」ことの意味 語ること、聞くことで作られる自分 7. 移行期としての「青年期」 子どもから大人へ、イニシエーションの意味 8. 移行期としての「青年期」 身体の変化と心の変化 9. 拡大し変化する「青年期」 「青年期」という言葉はいつから使われているのか？ 10. 拡大し変化する「青年期」 現代の青年の特徴 11. 「青年期」に起こること 強すぎる自分の意識 12. 「青年期」に起こること 無気力な状態 13. 「青年期」に起こること 対人関係の不安 14. 「青年期」に起こること 職業選択の迷い 15. まとめ 		